

平成28年度

市政モニターアンケート結果  
【買物環境について】



長 崎 市  
商業振興課

## 1. 調査目的

近年、身近な場所にあるお店が撤退するなどにより、日常の買物に困難を感じる人々、いわゆる買物弱者が問題視されています。

そこで、食生活に欠かすことのできない、生鮮食料品の販売店（以下、「お店」）に関して、市民の皆さまの買物環境の実態を把握・分析し、今後の施策の参考にすることを目的としています。

## 2. 調査の概要

調査期間：平成 28 年 12 月 15 日 ～ 平成 28 年 12 月 28 日

送付数：217 人（郵送モニター 174 人 インターネットモニター 43 人）

回答率：76.5%（166 人）

（郵送モニター 148 人 インターネットモニター 18 人）

## 3. 調査結果

生鮮食料品にかかる買物環境について、約 60%のかたが買物について何らかの不便さを感じており、そのうち約 23%のかたが「徒歩で行くのが大変」、約 35%のかたが「店までの距離が遠い」と答えています。

また、自宅から一番近いお店の利用頻度は、約 50%のかたが「利用する」と答えています。70 代以上は 40%にとどまり、他の年代層に比べて低い割合を示しました。近くのお店を利用しない理由については、「品揃えが少ない」が約 70%、「値段が高い」が約 57%と、高い割合を示しています。

徒歩圏（自宅から 500 メートル以内）にお店があるかたの方が「不便と感じる」割合が低くなりましたが、利用頻度とお店の距離との関係を見ると、徒歩圏にお店のあるかたとないかたに大きな違いはみられませんでした。このことから、仮に買物に不便感を持ち、徒歩圏にお店がない場所の近くに出店がなされても、品揃えや値段等といった内容に優位性がないと、高齢者であっても、お店の利用につなげることは難しいと考えられます。

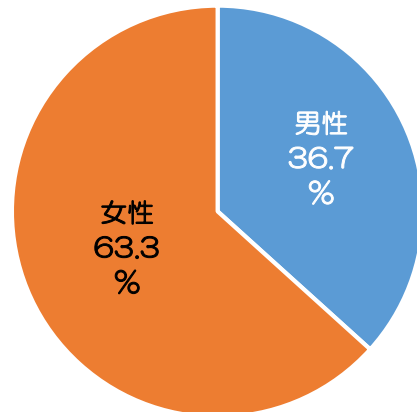
買物環境向上のための支援やサービスについては、約 37%のかたが「宅配サービス」と答えており、全年代層でも最も高い割合を占める一方で、「ヘルパーの支援」が約 1%、「近隣住民の協力」が 0%と低い割合を示しました。このことから、お店で直接買物をしない、できない場合の手段として、お店などから届けられるサービスが最も望まれ、他人に任せることはあまり好まれないことが分かりました。

## 4. 調査結果の見方

調査結果の数字は、百分率で表記しているものがあり、百分率の値は、小数点以下第 2 位を四捨五入して、小数点第 1 位まで表記しています。そのため、内訳を合計しても 100%に合致しない場合があります。また、複数回答可とした設問においては、合計が 100%を上回る場合があります。

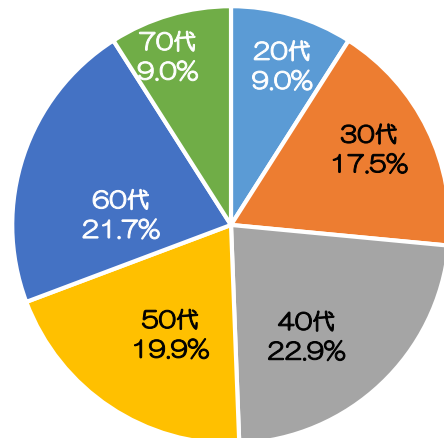
問1 あなたの性別をお答えください。

選択肢	回答者数	割合
男性	61人	36.7%
女性	105人	63.3%
合計	166人	100.0%



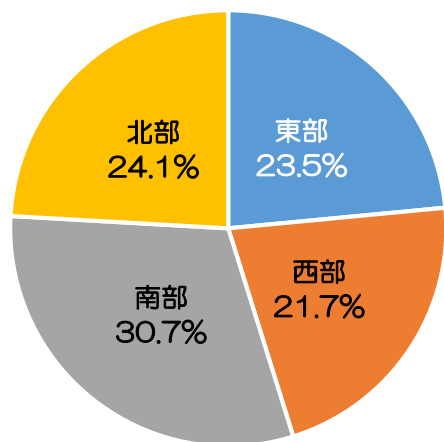
問2 あなたの年齢を選択してください。

選択肢	回答者数	割合
20代	15人	9.0%
30代	29人	17.5%
40代	38人	22.9%
50代	33人	19.9%
60代	36人	21.7%
70代	15人	9.0%
合計	166人	100.0%



問3 お住まいの町名を教えてください。

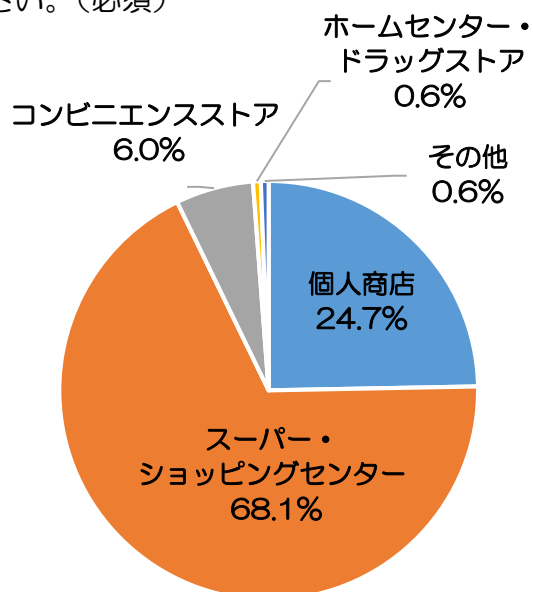
選択肢	回答者数	割合
東部	39人	23.5%
西部	36人	21.7%
南部	51人	30.7%
北部	40人	24.1%
合計	166人	100.0%



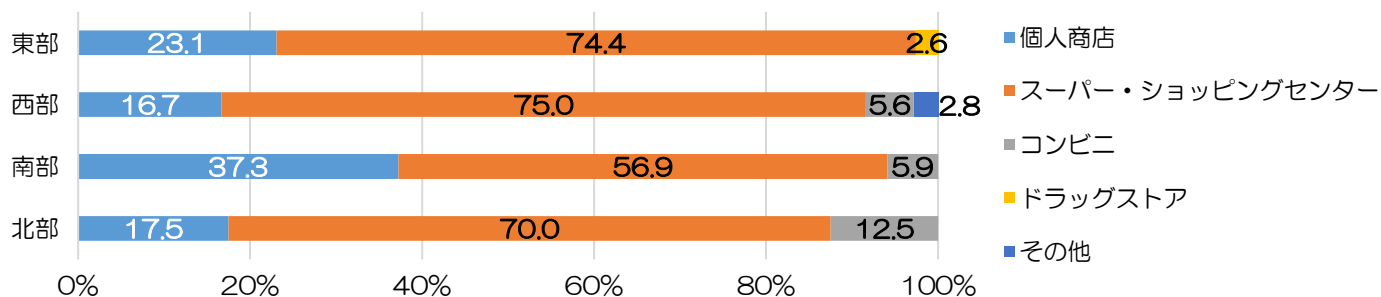
※ご記入いただいた町名をもとに東西南北に分けて集計しています。

問 10 あなたの自宅から、肉や魚などの生鮮食料品を販売している一番近いお店はどこですか。あてはまるものを1つだけ選んでください。(必須)

種類	回答者数	割合
個人商店	41人	24.7%
スーパー・ショッピングセンター	113人	68.1%
コンビニエンスストア	10人	6.0%
ホームセンター・ドラッグストア	1人	0.6%
その他	1人	0.6%
合計	166人	100.0%



<地域別の一歩近いお店の割合>

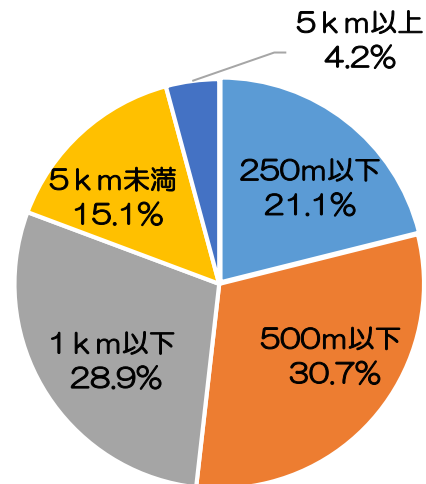


自宅から一番近いお店の種類については、「スーパー・ショッピングセンター」が68.1%で最も多く、次いで「個人商店」が24.7%でした。

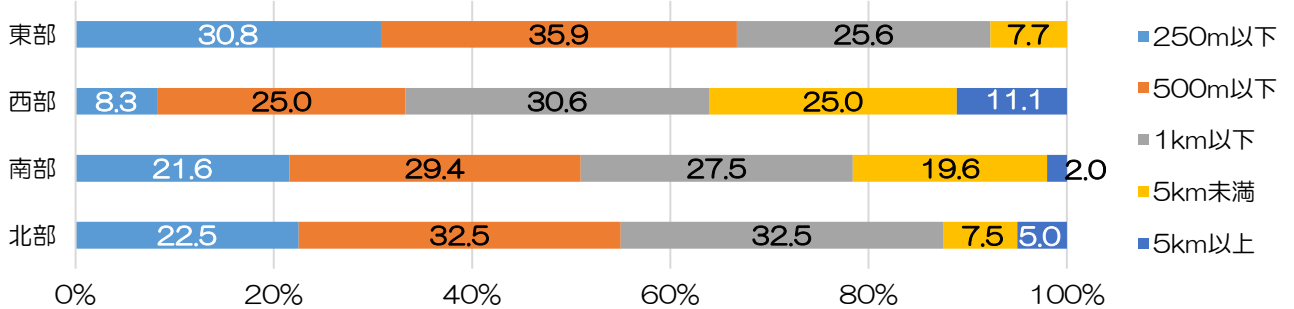
地域別に見ても、どの地域も「スーパー・ショッピングセンター」が最も大きい割合を示しました。一方、「個人商店」については、他の地域に比べて南部で占める割合が大きくなっています。

問 11 問 10 で回答した一番近いお店までの距離はどれくらいですか。(必須)

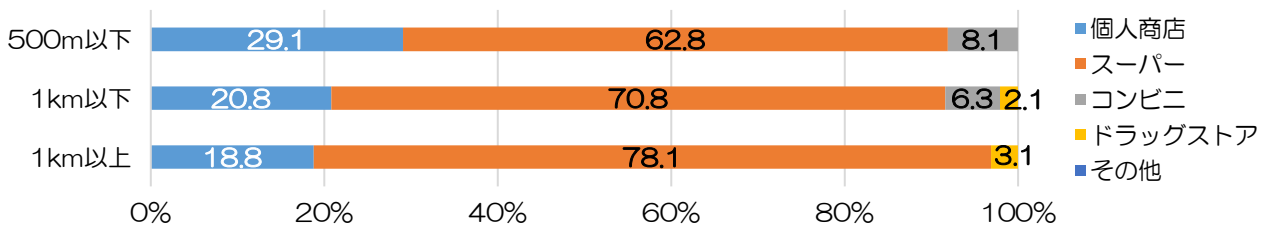
距離	回答者数	割合
250m以下	35 人	21.1%
500m以下	51 人	30.7%
1 km以下	48 人	28.9%
5 km未満	25 人	15.1%
5 km以上	7 人	4.2%
合計	166 人	100.0%



<地域別の一番近いお店への距離の割合>



<距離別の自宅から一番近いお店の割合>



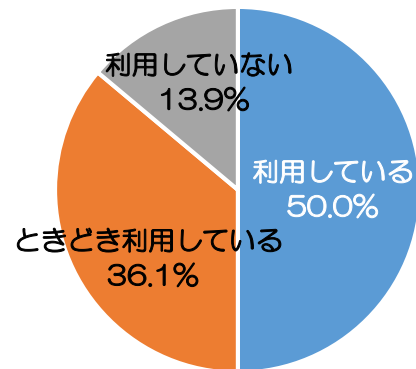
一番近いお店までの距離について、徒歩圏と考えられる「500メートル以内」にお店がないという回答の割合は 48.2%であり、うち、お店まで「5キロメートル以上」が 4.2%ありました。

地域別に見てみると、東部では 66.7%のかたが徒歩圏内にお店があると答えている一方で、西部では 33.3%にとどっています。また西部においては、お店までの距離が 5 キロメートル以上あるというかたが 1 割を超えており、地域で差があることが分かりました。

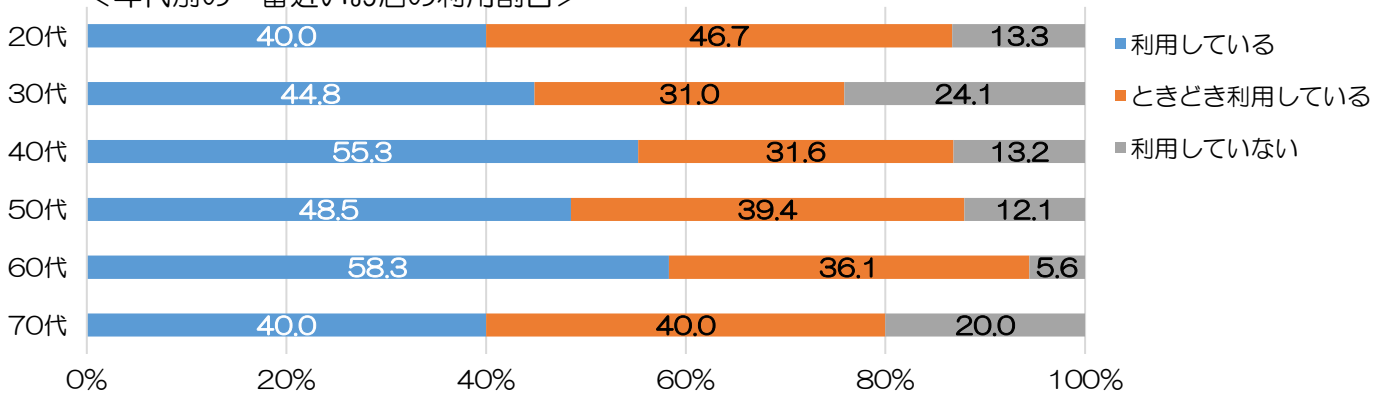
また、自宅とお店の距離が、500メートル以内のかたのうち個人商店があると答えたかたが 29.1%となっており、他に比べて比較的高くなっています。

問 12 問 10 で回答した一番近いお店を利用していますか。(必須)

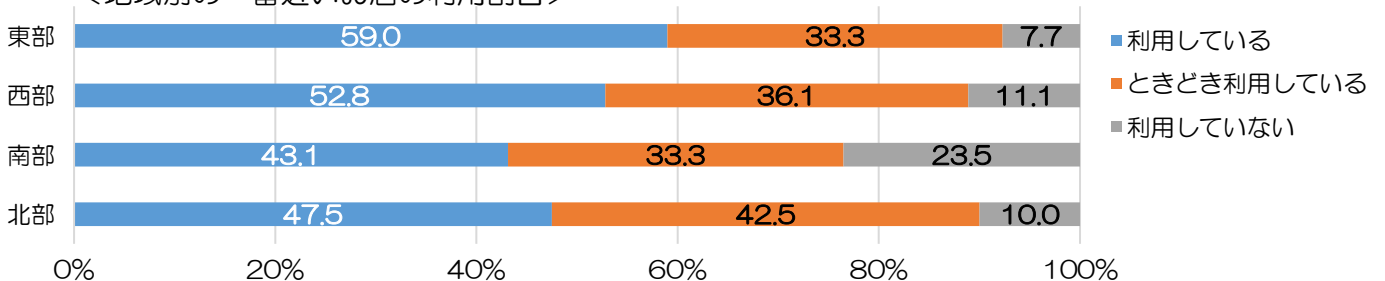
選択肢	回答者数	割合
利用している	83 人	50.0%
ときどき利用している	60 人	36.1%
利用していない	23 人	13.9%
合計	166 人	100.0%



<年代別の一番近いお店の利用割合>



<地域別の一番近いお店の利用割合>



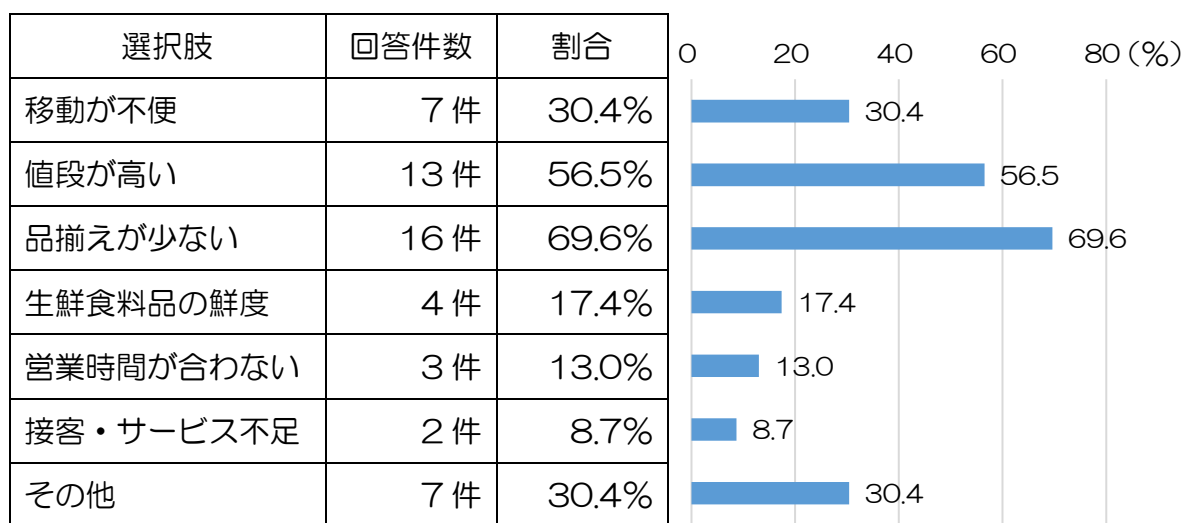
一番近いお店の利用頻度については、「利用している」が 50.0%、「ときどき利用している」が 36.1%、「利用していない」が 13.9%でした。

年代別に見てみると、60代が 58.3%と、近くのお店を比較的良好に利用していますが、一方、20代と70代以上がともに 40.0%と、利用頻度が低くなっています。

地域別では、東部が 59.0%と、近くのお店を比較的良好に利用する一方、南部は 43.1%と近くのお店の利用頻度が低いという結果が出ました。

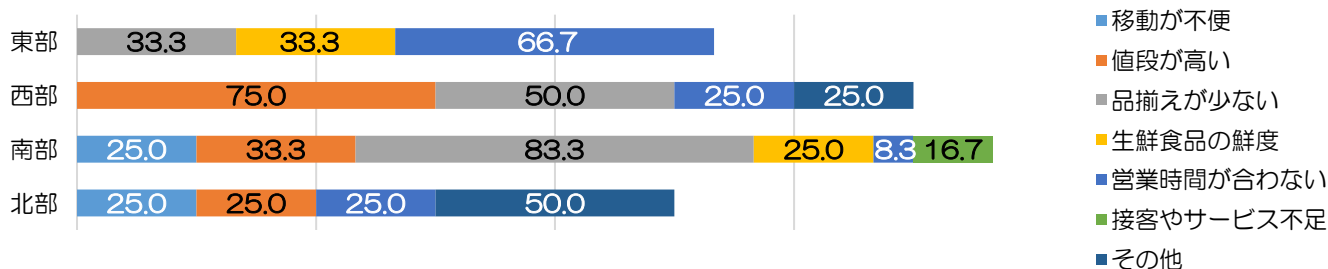
このほか、お店までの距離による利用頻度に大きな違いは見られず、「利用していない」かたのうち、一番近いお店が「個人商店」というかたが3割を超えています。

問 13 問 12 で利用していないと回答したかたにお尋ねします。利用していない理由は何ですか。【複数回答可】（必須）



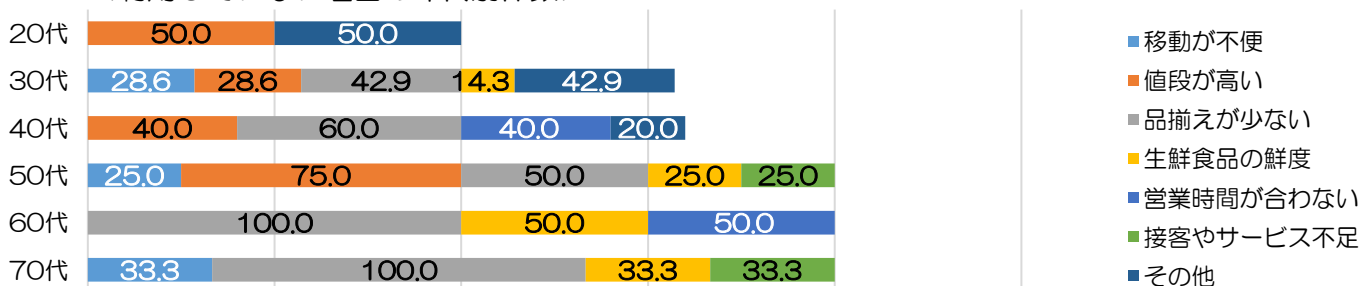
<利用していない理由の地域別件数>

(%)



<利用していない理由の年代別件数>

(%)



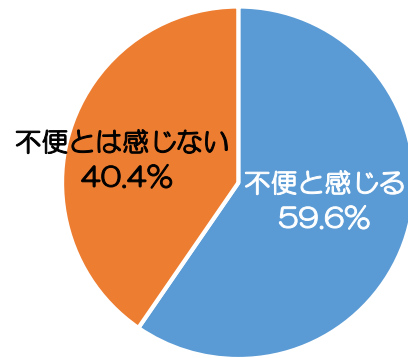
一番近いお店を利用しない理由について、「品揃えが少ない」と答えたかたの割合は69.6%で最も多く、次いで「値段が高い」の割合が56.5%となっています。

地域別に見ると、東部では「営業時間が合わない」が66.7%、西部では「値段が高い」が75.0%、南部では「品揃えが少ない」が83.3%と高い数値を示しています。

年代別では、60代、70代の全てのかたが「品揃えが少ない」と答えています。

問 14 生鮮食料品等の買物において、不便に感じることはどんなことですか。  
【複数回答可】（必須）

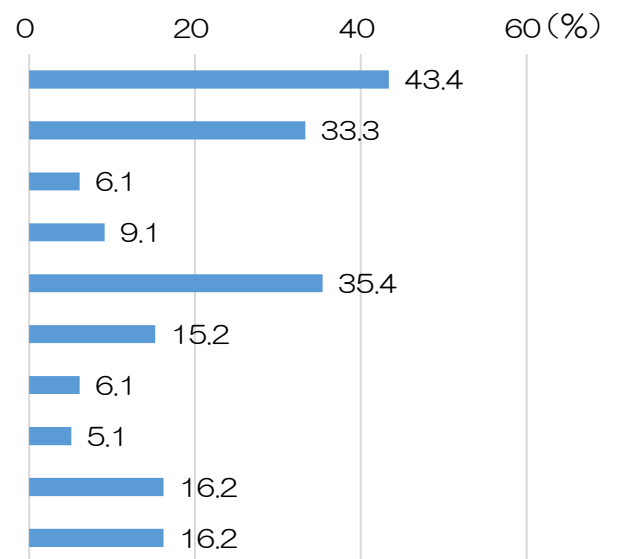
選択肢	回答者数	割合
不便と感じる(※)	99人	59.6%
不便とは感じない	67人	40.4%
合計	166人	100.0%



※不便と感じる理由については次の表に記載

<不便と感じる理由の回答>

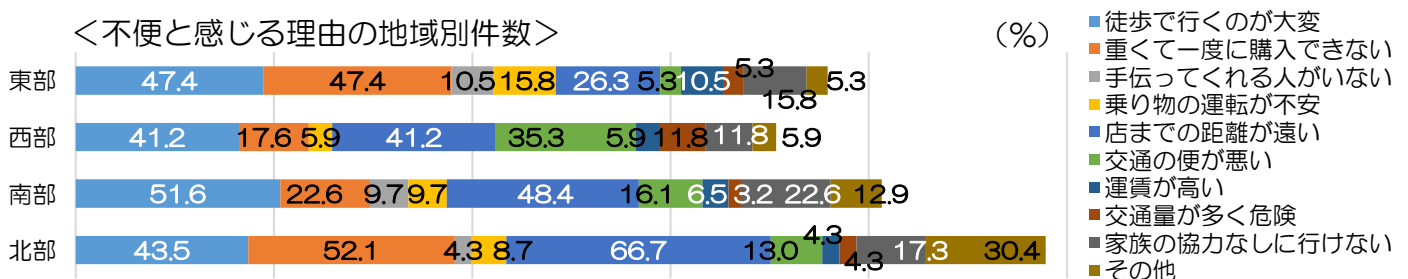
選択肢	回答件数	割合
徒歩で行くのが大変	43件	43.4%
重くて一度に購入できない	33件	33.3%
手伝ってくれる人がいない	6件	6.1%
乗り物の運転が不安	9件	9.1%
店までの距離が遠い	35件	35.4%
交通の便が悪い	15件	15.2%
交通運賃が高い	6件	6.1%
交通量が多く危険	5件	5.1%
家族の協力なしに行けない	16件	16.2%
その他	16件	16.2%



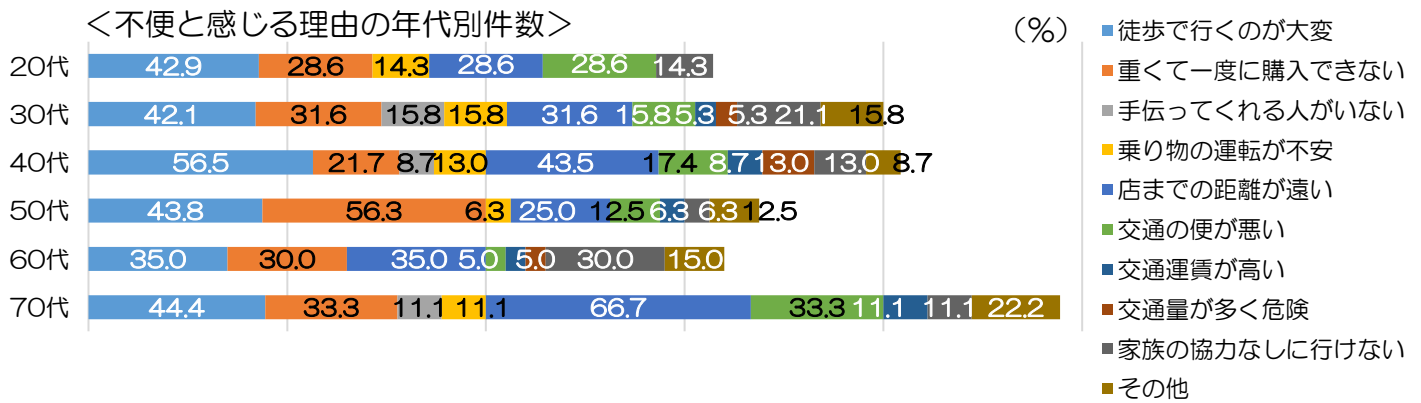
※主なその他の意見

- ・品揃えが少なく、市内中心地まで買物に行かないと行けない
- ・買物をするのに体力面に不安がある
- ・車を利用しないと買物に行けない
- ・荷物を持って坂を登ったりするのがきつい

<不便と感じる理由の地域別件数>







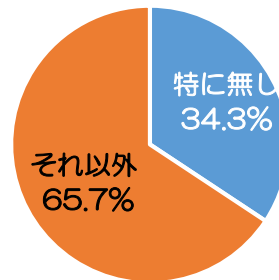
生鮮食品等の買物について、59.6%のかたが何らかの不便さを感じています。

不便と感じる理由については、「徒歩で行くのが大変」が43.4%で最も多く、次いで「店までの距離が遠い」が35.4%、「重くて一度に購入できない」が33.3%となっています。また、西部と南部で「重くて一度に購入できない」が少ないものの、西部では「交通の便が悪い」が35.3%と、他の地区と比べて高くなっています。

年代別では、特に目立った偏りは見られず、どの年代も「徒歩で行くのが大変」や「運賃が高い」が高い割合を示しました。

問 15 どんな支援・サービスがあれば、あなたの買物環境はよくなりますか。  
【複数回答可】

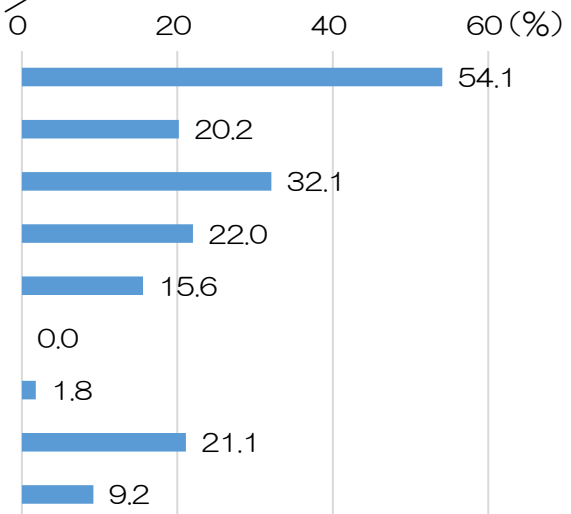
選択肢	回答者数	割合
支援等が必要(※)	109人	65.7%
特に必要なし	57人	34.3%
合計	166人	100%



※支援等の種類については次の表に記載

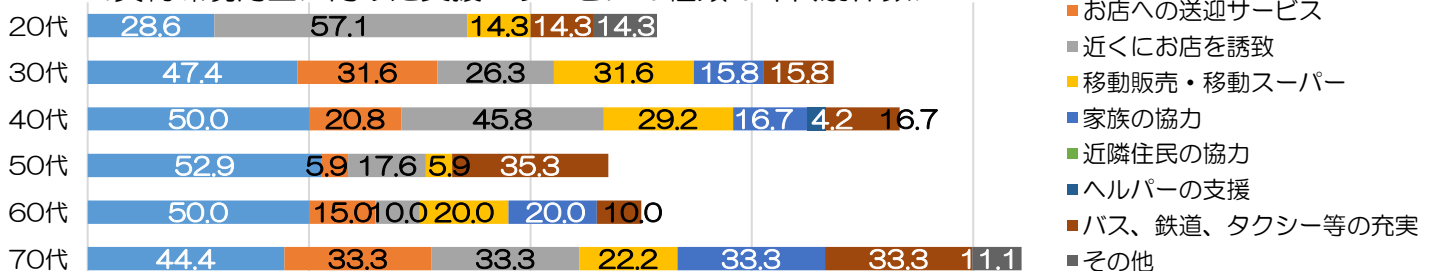
＜買物環境がよくなると思う支援・サービス＞

選択肢	回答件数	割合
宅配サービス	59件	54.1%
送迎サービス	22件	20.2%
近くに店を誘致	35件	32.1%
移動販売	24件	22.0%
家族の協力	17件	15.6%
近隣住民の協力	0件	0.0%
ヘルパーの支援	2件	1.8%
交通手段の充実	23件	21.1%
その他	10件	9.2%



※主なその他の意見・・・船の増便、駐車場のサービス

＜買物環境向上に向けた支援・サービスの種類の年代別件数＞ (%)



買物環境を向上するための支援・サービスについて、65.7%のかたが何らかの支援・サービスがあればよいと考えています。

求める支援・サービスについては、「宅配サービス」が54.1%で最も多く、次いで「近くにお店を誘致」が32.1%と多い一方、「ヘルパーの支援」が1.8%、「近隣住民の協力」が0.0%と低くなっています。

年代別に見ると、20代を除く各世代で「宅配サービス」と答えたかたが5割前後と多く、また、20代では「近くにお店を誘致」が57.1%、70代以上では「送迎サービス」が33.3%と、他の年代に比べて高くなっています。